

パールイデア

オリジナル製品・生産型を作製

納期を大幅短縮

「ロボット切削によって、これまで受注するものが出来なかった案件を受注できるようになった」と話すのは造形部・3Dラボの浅野和博室長。同社はマネキン製造から店舗、オフィス、住居など様々な空間のプランニングやプロダクト

の設計・製造を手掛けており、デジタル技術を使い、新しい価値作りを始めた。

同社の始まりはマネキン製造。原型師と呼ばれる職人が粘土でマネキンの原型を作り、石膏で型を取り、さらに、石膏の度作り直すことになり、納期も長かったという。

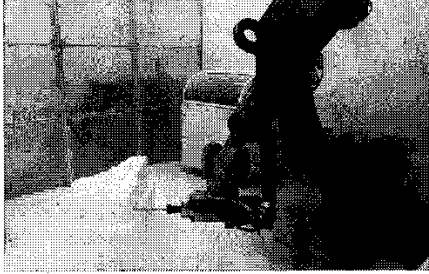
強化プラスチックで再び原型(生産型)を作り生産する。1つ1つが3次元CAD/CAMや3Dスキャナー、3Dプリンタを導入し、新工法を研究。目を付けたのがロボット切削だった。

そこで、4年前から3Dモデルを活用し、入念にニーズを汲み取り、

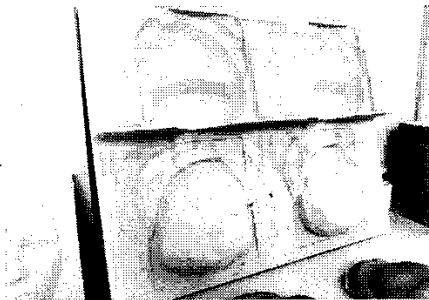
ロボット切削でオリジナル品や生産型を作ること、納期も早ければ1週間と大幅に短縮した。

「ここまでの道のりは簡単ではなかった」と浅野室長は語る。元々切削加工やロボットの知識はなく、ゼロからのスタート。ゼネテックからサポートを受け、ロボット操作ソフト「RoboMaster」や「Mastercam」、UKAの産業用ロボットを採用し、トライ&エラーを繰り返した。「すべてチャレンジ。ドリルやエンドミルの知識がないため、回転数や送り速度など、この3年間は試行錯誤で、最近ようやく操作に慣れてきた」。まだ、ロボットとワークの位置関係や最適なロボットの軌跡設計、加工条件に苦労するというが、慣れたロボット操作を披露した。

同社は今年、社名を菱



ロボット切削風景



ロボット切削によるワーク



プログラム画面

パールイデア

本社：岐阜県瑞穂市野田新田4045
 電話：058・326・3720
 代表者：後藤康弘社長
 創業：1956年
 従業員：193人
 事業内容：商業空間やイベント空間の企画・デザイン・設計・施工、マネキンや陳列什器などデザイン・設計・制作。

「これまでアパレルがメインだったが、新しい造形技術でキャラクター作りなど新市場の開拓を進めていく」。